



今尾の子



令和4年度 えのき通信

海津市立今尾小学校だより

令和5年3月1日

感謝と今後も継続して



令和4年度の締め括りの月を迎えました。三月二十三日の卒業証書授与式をもって、六年生は卒業を迎え、二十四日の終業式・修了式をもって在校生は三学期の学びを終え、今年度の教育課程を修了することになります。

保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。

さて、委員会、クラブ活動、スマイル班活動など、学校の様々な行事・活動の中で、いつも全校のよきリーダー・手本として頑張りを、活躍してくれた六年生二十八名が卒業します。あこがれられる六年生であるのは、ご家庭や地域の皆様の温かい励ましがあったからです。子供は、地域の自然、文化、そして人の愛情で育ちます。争いをし、仲直りすることで、人とかかわり方を学びます。自分の思い通りにならないことも多く、そうしたことがあってこそ、我慢することを学び、心が育つのです。こうした子供の学び、育ちの根底になくてはならないものは、ご家庭の愛情によって育まれた安定感、安心感です。

このように、六年生は愛されているという安心感から、さらなる自信や意欲をもち、自分や周りの人のよさに気付いてきたのだ

と思います。

「まなぶ」（学ぶ）という言葉は、「まねる」（真似る）と同じ語源です。「まねぶ」とも言われていたそうです。そのことからわかるように、自分が真似たいと思う人のやり方を「まねぶ」ことから始めるのは、学びの基本だと考えられます。

高学年の子供達がしっかりと行動を取る。その行動を見て、真似て、低学年の子供達はいろいろなことを学んでいくということを特に感じます。手本が自分の身近な学年にたくさんいること、保護者、地域の方々すべてが手本になっていただけていることは、本校のよさです。

上級生が下級生の憧れになっているのです。また、手本となる人が近くにいれば、教わり上手となり、さらに多くのことを学ぶことができます。学ばれる側だけでなく、学ぶ側が学び上手で、素直に憧れる気持ちの持ち主、学ぼうとする素直な気持ちのある子供達だということもよさだと思います。六年生が卒業するまでに、六年生のよさを学ばせたいと考えています。スマイル班による掃除や全校遊びもその一つです。

このように「学び」は身近な人との関わりから始まります。小さいうちは、家族の行動を見て、話す声を聞いて学びが始まります。特に、小学生のうちは、何でもまねてしまいます。その傾向は、小さければ小

さいほど強いと言えるでしょう。単なる行動だけでなく、考え方もまずは、近くの人から学べます。そのうち、学ぶ範囲が広まっていきます。実際に見えている範囲だけでなく、テレビや本、今はインターネットを通じて学ぶこともあるでしょう。人の学び、さらに言えば、成長には、モデル、あこがれの存在が必要です。モデルが近くにあつて、「ああ、あの人がみたいになりたいな。」「あの人のあれをまねしてみよう。」と、これが学びの始まりです。

私たち大人は、常に子供達に見られていると、「真似ばれている」という思いを気持ちのどこかにもちながら行動をとったり、話をしたりしなければならぬと思います。学校ではすべての教職員がその対象です。あこがれの存在であるように実践していきます。ぜひ、今後も家庭や地域の方々も手本となれるように、よろしく願います。

今後も 感染拡大防止対策を

コロナ感染がまだまだ終息しませんが、今後の感染症に対する基本的な対応等が具体的に出来るような状況です。外から感染源となるものを学校・家庭内へ持ち込まないためには、家庭の協力が不可欠です。

何卒今の状況をご理解いただき、ご協力を今後もよろしく願います。

(日比 修二)